



バンコク中心部から約3kmの所にタイ最大のスラム街「クロントイ・スラム」がある。国内2番目に大きい港「バンコク港」が近くにあり、幹線道路はコンテナを積んだ大型トラックがひっきりなしに走っている。ソイ(小道)に入ると、華やかなバンコクの街とは正反対の貧しい暮らしが目に入る。さびたトタン葺(ぶ)き屋根と木で作られた高床式の家屋が目立ち、入り組んだ路地を歩けば、どぶの臭いが鼻をつく。

バンコク都庁の発表では、バンコク市内に2067カ所のスラム街が存在し、約210万人がスラムで生活している。つまりバンコクの人口の5人に1人がスラムに住んでいる。

バンコクに広がるスラム街

スラム形成の歴史は、1960年代に入り工業化政策が本格化し、都市部では安価な労働力を大量に必要とした時期に始まる。度々の干ばつで生活が苦しくなった農民が、田舎から都市へと仕事を求めて流れ込んだものの、地価の上昇により住む場所も見つからず、次々と空き地に不法に住み続けスラムが形成された。現在、約10万人が63万平方メートルと広大な「クロントイ・スラム」で生活している。また住民の中には、カンボジアやミャンマーからの移民労働者も増えている。

政府はバンコク郊外に低所得者向けの公営住宅の建設を進めており、5年後をめどにスラムの解消を図ろうとしている。しかしながら、スラムに住む多くの人は港湾

格差解消、教育支援が鍵

や都心部での日雇労働や生活雑賃などの行商、スラム内部の屋台や



タイ最大のスラム街のクロントイ・スラムで生活する住民。タイ・バンコク市内

バイクタクシーなど、いわゆるインフォーマル・セクター(非公式経済部門)で稼ぎ、生計を立てている。生きていくためには都市部に住む必要があり、また住民たちは、これまでスラム内で貧しい暮らしを助け合ってきたコミュニティが解体されてしまうことに抵抗している。

現在、日本をはじめ世界各国から「クロントイ・スラム」の住民を支援するための仕事のあっせんや教育の施設がスラム内に設けられている。長年支援財団で活動している日本人は「貧困の格差を是正するためには、子供たちの教育が大切。また植物を育てきれいな花が咲く所には誰もごみは捨てない」という。軍政から4年が経ち、いまだタイの政情は不安定だが、その根幹は格差社会の形成にあるのではないだろうか。

(岐阜信用金庫バンコク駐在員 事務所長 高橋英孝)